

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 1月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202857		
法人名	有限会社 のどか		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	札幌市北区あいの里2条3丁目1-3 (電話)011-778-8837		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年1月12日	評価確定日	平成22年1月22日

【情報提供票より】(平成 21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 3月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤 7人、	非常勤 3人、 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 43,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 18,000円 暖房費: 13,000円(11~3月)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.7 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科、 フォース歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の住宅地にある2世帯住宅改築型2階建ての定員7名のグループホームである。利用者のことを考え、1月中に車で10分程度の住宅地に新築移転し、その後は平屋建てのホームとして生まれ変わる予定である。運営面では、理念や方針が確立し、仕組み作りや人材育成の面に力を入れ、中でも利用者の外出支援や地域との交流、家族への報告、医療面の支援体制、運営推進会議、研修の参加などで充実した取り組みが行われている。介護計画は職員間で話し合い本人本位の計画を作成しており、役割ごとを持ちたり、自分のペースで生活できるように日々の支援が行われている。運営者が利用者や職員に愛情を持って接し、よりよいホームとなるよう日々取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果についてミーティングや運営推進会議で報告し、改善に向けての検討を行っており、前回の取り組み課題である水分摂取量の記録についても適切に実施されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員に評価表を配布して記入してもらい、会議で意見交換をした上で取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センターの職員、民生委員、利用者、家族などが参加して2ヶ月に1度開催されており、外部評価や市の実施指導などの結果を報告し、改善に向けた検討を行っている。同性による入浴介助の実施など会議での意見を取り入れている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議を全家族に案内し半数程度の家族が参加しており、会議の中で意見や要望・提案をもらっている。玄関には意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談窓口と外部の苦情申し立て機関を詳しく明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	普段の散歩などで近所の方と親しくしており、町内会に加入して総会に出席したり花壇の管理や清掃を行っている。町内会のお祭りや小学校の運動会、学習発表会にも参加している。中学生や大学生が体験学習でホームを訪問している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設と同時に「地域の中で自然とふれあい、自分らしくのどかな生活を笑顔で過ごしたい」という理念を作り上げ、地域密着型の理念を確立している。倫理規定も整備し、具体的な介護目標も検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の壁に掲示され、職員は毎朝見るように心掛けており、パンフレットの表紙にも記載している。勉強会で理念の一つ一つの言葉の意味を考え直し再認識する機会を設けている。また日々の介護が理念に沿っているかどうかを確認している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段の散歩などで近所の方と親しくしており、町内会に加入して総会に出席したり花壇の管理や清掃を行っている。町内会のお祭りや小学校の運動会、学習発表会にも参加している。中学生や大学生が体験学習でホームを訪問している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に評価表を配布して記入してもらい、会議で意見交換をした上で取りまとめている。外部評価の結果についてもミーティングや運営推進会議で報告し、改善に向けての検討を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は地域包括支援センターの職員、民生委員、利用者、家族などが参加して2ヶ月に1度開催されており、外部評価や市の実施指導などの結果を報告し、改善に向けた検討を行っている。同性による入浴介助の実施など会議での意見を取り入れている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加している。1月にホームを移転するため、移転に関わる手続きで市役所へ頻りに訪問し担当者に相談している。その他にも市や区の担当者と個別に事業所の実情や困難に思っていることを相談している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の様子を報告している。毎月「のどか」通信を作成し、利用者ごとに個別の様子も記入して送付している。行事での写真もA4に拡大印刷して作成し、金銭出納報告はコピーをとり領収書とともに毎月家族に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議を全家族に案内し半数程度の家族が参加しており、会議の中で意見や要望・提案をもらっている。玄関には意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談窓口と外部の苦情申し立て機関を詳しく明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を最小限に抑えるため管理者や主任が職員の育成に取り組んでおり、開設以来職員の離職はほとんどなく、利用者がダメージを受ける場面は見られていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月のミーティング時に外部研修の報告会や介護の勉強会を実施している。研修計画を作成し、各職員が年に4回程度は段階に応じた外部研修を受講できるよう取り組んでいる。職員に各種の資格を奨励しており、受験時にはシフトを調整している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北区のグループホーム管理者連絡会の職員研修に職員が参加しており、グループ討論などを行って他のグループホーム職員と交流している。また1月の移転後には石狩市のグループホームと職員の相互交換研修を実施する予定である。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在は2年以上利用者が変わっていないが、過去においても利用開始前になるべく本人が見学し、納得した上で利用を開始している。利用者数が7名で職員もほとんど変わらないため、必然的に深い結び付きができやすい環境にある。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は職員に調理の仕方や昔話などを教えてくれる。時には感謝やいたわりの言葉をかけてくれる場面もある。元看護師の利用者から若い職員を研修生のようにして接してもらおうなど、支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	ほとんどの利用者は意思表示ができる状態にあるが、発語が難しい利用者にはなるべく問いかけを多くし、うなずいてもらうなどして意思を確認している。センター方式によるアセスメントシートを一部用いて、利用者の生活歴や意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用開始時に、計画作成者は家族や病院などから情報を収集し、センター方式とチェックシートを併用しアセスメントを行い、それを基に暫定計画を作成している。経過を観察して1ヶ月後にカンファレンスで話し合い、日頃の関わりの中で得た本人の思いや家族の意向を反映した介護計画を策定している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は3ヶ月ごとに見直し、その準備として利用者担当は本人の状態を毎月チェックし、詳細な個人記録なども参考にモニタリング表を作成し、カンファレンスで意見交換をして次の計画に反映させている。骨折などで利用者の状態が変わった時にはカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画に作り直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	受診の送迎、買い物や散髪を送迎、また入居前から利用していた病院のデイケアを継続できるように配慮するなど、個人の要望に応じて柔軟に対応している。今後は移転地でデイサービスやショートステイなど、多機能性を活かした取り組みを考えている。		多機能性を活かしたデイサービスなどの提供で、地域住民との関係が深まるような取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療が2週に1回、訪問看護が週1回あり、必要時には訪問歯科もあり常に相談できる体制になっている。内科以外の専門病院には以前からのかかりつけ医などを継続し、受診には管理者が同行し複数の医療機関と連携を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化に対する事業所の方針を文書で交わし、終末期の状態や急変時には主治医の説明後、「急変時、終末期の介護についての同意書」を個人別に作成し同意を得ている。事業所の移転後は利用者が安心して終末期を過ごせるように、看取りケアを行う予定で準備中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳、プライバシーを尊重する内容の倫理規定があり、排泄の失敗などに配慮し、声かけの取り決めやケア場面での対応をミーティングなどで確認している。個人情報の書類は事務所に保管し、記録中に席を立つ時にはファイルを閉じるなど個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握する中で必ず本人の意思を確認している。散髪に出かけたり買い物のついでにお茶を飲むなど希望に沿って対応しており、起床や就寝時間、食事も本人のペースに合わせてケアを行っている。丁寧できめ細やかなケアを心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを勘案し職員が献立を作り、旬の食材を取り入れるようにしている。また外食や年に3～4回は寿司職人の出前の握り鮓を楽しむなど、食の楽しみを提供している。時には餃子、シュウマイ、稲荷ずし作りに利用者も参加し、盛り付け、配膳、下膳などを職員と一緒にいき、食事を共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思を確認しながらできるだけ希望に沿って週に2回以上は入浴できるように対応している。利用者のプライバシーに配慮し同性による入浴介助を実施しており、入浴を嫌がる利用者には声かけの工夫をしている。年に1回は全員で温泉に出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗濯物干しや畳みなどのできそうな仕事をお願いしている。外食や遠出を楽しむ、事業所内での焼き肉や流しソーメンなど、生活の中で食べる楽しみを作り出している。書道、裁縫、編み物、貼り絵など個人的な趣味を支え、カラオケやボランティアの催しを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外気に触れるよう、夏季には遊歩道や公園を散歩し、買い物、外食、月に数回は外出行事を行い出かける機会を多くしている。冬季には大型店舗に出かけ、ゲームや飲み物、食事などで楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間で光る方式のセンサーを玄関につけ、耳障りにならないよう音は出さないようにしている。また日中は鍵をかけておらず、外に出た時は一緒に散歩し安全面に注意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策のマニュアルを作成し、自衛消防隊の役割を決めて災害に備えている。消防署の協力の下、利用者も参加して避難訓練を実施し、救急救命についても毎年全職員が学んでいる。現在は年1回の日中想定した訓練だが、今後は事業所移転先で昼夜を想定した年2回の訓練を検討している。</p>		<p>移転先での運営推進会議では災害時や避難訓練を議題に取り上げ、住民の協力が得られるような体制作りを期待したい。また夜間を想定した避難訓練の実施にも期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量は個人記録で把握し、水分の不足には好みの飲み物を提供している。栄養バランスに配慮して献立を作っているが、今後は栄養士から献立を学び、栄養バランスのチェックを依頼しているところである。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2世帯住宅を改築した共用空間は家庭的な造りで、調理や生活の音を身近に感じられ居心地よく過ごせる環境である。食堂、居間は明るく、窓からは四季の景色が見渡せる。安全に移動ができるように2階への階段や要所に手摺りが取り付けられ、車椅子も特注するなどの工夫がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>配置によっては広い部屋もあり、備え付けのクローゼットに衣類などを仕舞い、居室内は整頓されている。タンス、イスなどの家具を持ち込み、家族の写真、縫いぐるみ、趣味の貼り絵などが飾ってあり、窓から景色を眺めて過ごせるような造りになっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。